

## 平成 29 年度 ISO/TC46/SC9 国内委員会 第 1 回委員会 議事録

1. 日時：平成 29 年 7 月 12 日(水)10:00～11:45
2. 場所：日本図書館協会会館 5 階 会議室 1(東京都中央区新川 1-11-14)
3. 出席者：

委員長	宮澤 彰	国立情報学研究所
委員	柳澤 健太郎	国立国会図書館収集書誌部
	原田 智子	鶴見大学
	追川 正人	一般社団法人日本音楽著作権協会
	秋元 良仁	凸版印刷株式会社
	畑 陽一郎	一般社団法人日本レコード協会
	古神子 広一	株式会社 キュー・テック
	丸山 信人	一般社団法人日本雑誌協会
事務局	光富 健一	一般社団法人情報科学技術協会

(敬称略・順不同)

\* 木俣洋一委員、前沢克俊委員、小出啓介委員は欠席。

4. 配布資料(会議後配布の差替版の頁数を括弧内に示す)：

pp.3-7	平成 28 年度 ISO/TC46/SC9 国内委員会第 2 回委員会議事録
pp.8-17	資料 1 平成 29 年度戦略的国際標準化加速事業:政府戦略分野に係る国際標準開発活動実施計画書
机上差替 (18-24)	資料 2 デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子(国際図書館資料識別子)DIS 投票結果(Result of voting)
pp.29-45 (25-41)	資料 3 ISO/TC46 プレトリア総会報告
pp.46-49 (42-45)	資料 4 ISO/TC46/SC9 投票報告
pp.50-69 (46-65)	資料 5 ISO/TC46/SC9 投票審議案件
pp.70-71 (66-67)	資料 6 標準化テーマ調査票

5. 議事：

前回議事録は異議なく承認された。今回の議事録作成は柳澤。

- 1) 平成29年度実施計画

資料1に基づき宮澤委員長より説明。経産省からの予算として、日本から新しい標準

を提案するための費用が支出されている。この計画は、SC9から提案している規格案2本が主対象。今年度は3年計画の3年目にあたる。内容的な事項はWGで検討する。なお、ISO/TC46/SC9国内委員会で行う国内審議や投票の活動も、これに資するものとして、他の4つのSCとともに本計画の活動として位置付けられ、費用の支出を受けている。

## 2) 実施計画進捗状況報告

### 2-1) デジタルアーカイブ利活用のための国際標準化

宮澤委員長より説明。3月の投票により、1月にNPが通り、4月にWG設置が認められ、WG14の設置待ちだが7月現在未設置。事務局にも問い合わせたが返事がない。なお、NPを通った段階で「22038」という番号が付いており、規格化されればISO22038となる。

### 2-2) デジタルアーカイブにおいて原資料を管理するための識別子

資料2に基づき宮澤委員長より説明。略称はILII。DIS20247の投票は、12週間の期間を経て、先週締め切られた。19票全て賛成票で承認。ただし米中加独の4か国は、コメント付の賛成。加はエディトリアルコメントだが、米中はテクニカルコメント。図書館が現物を所有せず、アクセス権のみを持つ電子ジャーナルを対象外とする規定があるのを問題視して、米のANSIは、ILLも目的となるので除外はおかしい、とする。しかし、そのような資料を図書館資料として登録することは、日本の内外を問わずないと思われるので、その点を指摘したい。また、こうした点は本来、CDの段階で指摘するのが妥当な内容。その他、具体的な対応はWG2で行う。

### 2-3) デジタルアーカイブ国際標準化活動のための環境整備

宮澤委員長より説明。SC9の他に、MARCフォーマットやz39.50を初めとして最近ではRFIDなど技術的な相互運用性を扱うSC4、図書館統計や図書館のパフォーマンス指標など統計を扱うSC8、図書館で用いる保存箱など資料の物理的な保存のための技術を扱うSC10、ドキュメントのうち保存すべきものにあたるレコードの選別廃棄の手順などアーカイブズやレコードマネジメントに関わる基準を扱うSC11がある。

## 3) ISO/TC46プレトリア総会報告

資料3に基づき宮澤委員長より報告。毎年一週間ほどの間に、TC46本委員会や、その下のSCの総会が開催される。今年は南アのプレトリア、来年はポルトガルのリスボンで開催。なお、新規規格の承認を得るには総会への参加は重要なので、この参加費もそこから支出される。SC9に関係するものを概観すると、次の通り。

- ・p.35: SC9に多くの識別子があるが、その関係を整理するための特設グループ。TC46/SC9の事務局を務めるNISOのTodd Carpenter氏から、WGを新設してSC9の識別子の原則をテクニカルレポートという形で示す、との提案が示され、承認された。

・p.36: 登録機関(RA)の特設グループ。TC46/SC9の総会出席者の多くは、ISBN、ISSNを初め、古くから識別子のRAを担ってきた団体からの参加者である。これらの団体では近年、中央事務局(CS)が業務手順書の改訂等を通じて、RAに対する縛りを強くしていく動きに対して、警戒感を持っている。そこで、中央事務局に対してRAの立場を確立し、意見を伝えよう、とする組合的なグループが設けられた。ISOの規格の文面に地域センターを記載してはならない、という規定ができたのに対し、例外を2件ほどみとめさせた、といった実績がある。なおTPM(Technical Program Manager)というのは、ISO中央事務局(ISO/CS)の担当で、各TCにつき1人ずつ割り当てられ、TCとISO/CSの橋渡しをする。TC46担当はPelaprat氏。

・p.37-41: TC46/SC9の総会。実質的な審議はWGで、意見表明は特設グループで行うこともあり、概ね形式的な報告。1年間の出来事、メンバーの増減、新規規格の進捗や既存規格の見直しの結果報告、といった内容。余計なSRが3件入っていた、という点には要注意。TC46の事務局を務めるNISOの、近年の事務能力低下が表れている。ISOの手続きは毎年変わるので、中央事務局からは変更点の説明があった。続いて、現在進行中のプロジェクト、規格制定手続きの進捗報告や決議事項。決議はほぼ提案通りに進んでいくが、ここでの決議を経て次の段階へ進むもの。所感としては、事務局の能力に問題があること、RAと中央事務局に緊張関係があり、RA側が結束して対応しようとしていることが重要。

・pp.42-45: TC46の総会。議長と事務局はフランス人で、AFNORの現事務局担当者は的確に処理している。議長はISSN国際センターのBecquet氏。TC46の中央事務局の報告、各SCからの報告、TC46の取扱い事項に続いて、決議事項を処理する。

以下質疑応答。

TC46の事務局に問題があるというが、所定の期限に間に合わなくなる等、規格の策定・改訂に支障は出ないのか。

出る可能性はある。その場合、中央事務局に事情を説明すれば、期限の延長が許される可能性が高い。

RAと中央事務局との緊張関係について、ISSNのRAを務めるISSN国際センターの追認にあたり、添付資料で課金の話題が出ていたのが気になる。中央事務局側では金額を抑える方向で動き、国際センター側では適切な範囲で設定することを強調している、という構図か。

SC9ではないが、規格を作ってRAを設け、高額な料金を徴収しようとした動きがあった。これを警戒しているが、SC9にはそのような例はないので、SC9のRA側では、縛りが厳しくなることに不満を持っている。RAの中には、登録数が伸びない等の問題を抱えている団体もあるが、SC9のISBN、ISSNといったものは、昔から何の問題もなくRAを担ってきた。これに対し、特に問題も起こしていないのに締め付けが厳しくなることに対する疑問がある。

ISRCについて、そのままISに進むと予想したが、意外と多くコメントが出た。次はFDISに進むはずだが、一向に手続が始まらない。どういうことか。

言及はあったと記憶しているが、正確には思い出せない。

通常、テクニカルコメントを踏まえてFDISを作れば投票にかかるはず。待つしかないのか。

結論としては、そうなる。SC9の事務局と、ISOの中央の事務局との関係もある。RAが関係する規格に関しては、中央事務局の確認が厳しい。やりとりもかなり多くなり、非常に時間がかかる。さらに現在、RAに関する新しいAnnexを中央事務局が策定している最中であり、策定中の規則との整合性を考慮していることも影響しているらしい。

細部までは不明だが、会議の席上でも、ISRCの担当者からの中央事務局に対する不満が見て取れた。

#### 4) ISO/TC46/SC9投票報告

資料4に基づき宮澤委員長より報告。

#### 5) ISO/TC46/SC9投票審議案件

資料5に基づき宮澤委員長より説明。

・1: 識別子の関係を整理する特設グループに専門家を派遣する用意があるかを問うもの。基本的にTodd Carpenter氏が作業する見込み。ただし、日本から誰かしらが参加し、情報を把握しておくことが、将来に向けては重要である。関心のある者はいるか。

作業負担は、必要に応じて情報を国内委員会に回付する程度。対面での会合の有無は不明。総会の参加者が多く参加するようであれば、次回総会に合わせて対面での会合を行う可能性はある。いずれにせよ、結論はメーリングリストで。

・2: NP。新しい動き。5番6番とともに、1枚目の左上に「Form4」とあるものが該当。これは、1番の専門家派遣の対象となるグループの設置を問うもの。専門家を派遣するのであれば賛成することになる。結論はメーリングリストで。

・3および4: DOIとISCIのSR。

、DOIについては国立国会図書館内の担当部署に照会中。ISCIについては使用例は見つけられず、館としても使用実績・使用予定ともになし。

いずれも結論はメーリングリストで。ISCIは図書館に関わる。特に旧華族や大名の旧蔵書など、まとまったコレクションが一式移動したような場合に有効なもので、世界的にみても使用例は少ないはず。とはいえ、あつて困るものではない。ILII規格でも、これを用いる方法を示しているので、そのまま承認するのでもよい。

・5と6: いずれも、RAの関係。中央事務局が定めていた業務手順書の細則部分を、RA側で策定する試み、とも読める。とはいえ、精査はまだだが、何を作成したいのか、このままでは不明。テクニカルレポートを作成する、とも書いてはいない。

締切日がおかしい。6番が2018年5月31日となっている。

たしかに、おかしい。しばらく様子を見たほうがよい。いずれにせよ、結論はメーリングリストで。

6) 標準化テーマ調査票

資料6に基づき宮澤委員長より説明。現在作業中の2件の規格案は今年度で経産省からの委託事業としては終了する予定であり、その次に提案する規格の案。

7) その他

ISO3297のRAをISSN国際センターとする件につき、ISSN日本センターにて検討。「賛成」での投票を求める。

「賛成」票を投じることで決定。

事務連絡2件。

・新委員には、設定完了後に、国内委員会の共有フォルダへのアクセス方法を連絡する。

・次回以降も、ここが会場。往復で交通費が千円以上かかる場合は連絡してほしい。

第2回は年末か年始。それまでの審議はメールで行う。

(以上)